



順造選便り

お伝えしたいこといっぱい…の気持ちをこめて。

順造選ショップ
2016年10月号 vol.50
無料配信(郵送)をご希望の方は
0120-103-712
FAX.06-6443-2025
<http://www.junzosen.com/>
〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目18-5

私は一般の人より海外に出る事が多く過ごしてきました。
二十二歳大学を卒業後、神戸から「プレジデントウイルソン号」というアメリカの貨客船で、渡米したのが初めての旅でした。



敗戦後十二年、五十九年前のことです。
父親から貰った五百ドルの宝のようなお金を大事に持って、アメリカの大学を転々とした頃のアメリカも日本も、今とは全く違った世界でした。日本は貧しく、アメリカは夢のように豊かで、鷹揚で、自信にあふれたアメリカの人達でした。五十年ひと昔と言いますが、五十九年で人の世はこんなに激変するものかという思いがいたします。

五十年前の一九六五年三十歳の時、米国に現地法人を設立した頃は、まだ日本人に対する評価は非常に低く、クリスマスも正月も休みなく働く私の姿を見て、馬鹿にし笑いにする人達もいました。一方で応援して下さる人も沢山居られ、その人達に勇気づけられながら、いつの日か、いつの日か対等に話が出来るようになりたいと思い続けたものでした。そのような歴史の変遷、世の中の移り変わりを見てこれた事で、自分の人生は本当に豊かになってきたと思います。今の若い人達は豊かの中に住するが故に、豊かさに気づかないかもしれません。夢を持つ事ができ、一杯持つ事ができる。これに優る喜びはないのではないかと思うが、自分の人生を振り返ってみると、「豊」も大事ですが、「貧」も同じように大事だなあと思っています。

生きていっても面白くなく、退屈で、どうしようもないです。私も、動いて、創らなければ世界はあまりに退屈だから創るんだ」

至
言
岡本 太郎

ワインの話

—フランスワインとアメリカワイン—

前回は、1,500円以下のワインについて書いてみましたが、5,000円以上の一寸高いワインではどこの国ワインが良いかと聞かれますと難しいですね。

思い切って私の経験からの独断と偏見で書きますと、どうでしょう？

まずチリとかスペインのワインは、はずします。ニュージーランドのワインもかなあ？これらの国ワインをいろいろ飲んできて感じたことなので、最大公約数として書きます。

チリもスペインも高いワインを飲みましたが、失望したことが多いです。それだけの値段を出すなら、フランス、アメリカにもっと良い味のワインがあるなあ！

という感じでした。

ニュージーランドでワインショップに入り、値段を見ますと高くて3,000円位のものが多いので、これ以上高いワインはないか？と尋ねましてもなかなかありません。これらのワインが日本に入ると5,000円近くになるのかもしれません。ニュージーランドワインは沢山飲んでないので、自信ないのですが、5,000円位のところでそれ以上はどうかなあと直感的に思っていますが間違っているかもしれません。

それではどこの国ワインが??となるとフランス、アメリカ、イタリアでしょうか？アメリカ、フランスの高級ワインのブランド・ティスティングでは、アメリカのワインがフランスワインに勝つことが多くなっていますよ。

私は一寸飲んでみるとアメリカの高級ワインの味に驚かされるのですが、飲み続けると嫌味を感じてくるような気がします。

フランスワインは飲み続けても飽きがこないというのでしょうか。

アメリカの高級ワインの凄さには驚きますが、何かキンキラキンの味といった感じを私は持っています。これは私の受けた感じです。



1,836人の日系アメリカ人を対象にした実験と研究では、週3回以上、野菜または果物ジュースを飲む人は、週1回未満の人と比べてアルツハイマー病のリスクが76%減少する。(ヴィヴェール誌5月/2000)との事を知り、果物ジュースや野菜ジュースがそれ程の効果があるのかと驚いています。

アルツハイマー病/痴呆症予防の為に週3回位飲むようにされたらどうでしょう？私は毎日飲んでいますので大丈夫かも？

健康口メモ

アルツハイマーの予防に野菜ジュース！？



7月末、大阪・大根能楽堂での和泉流による「狂言の会」のチケットをいただき、久し振りに狂言を観劇しました。和泉流がどんな流派かも知らなかったのですが、家族というか和泉家一族で狂言の流儀を維持、継承されているのを知り、驚きました。狂言という伝統芸能をこのような型で維持継承されるご努力。ご苦労は大変なことだろうなあと頭が下がります。

順造さんの旅日記

ロサンゼルスの旅③



それでも9時に行ったら、もう満席です。それにしても朝食がチップ等を入れると二人25ドル位になります。朝食の美味しいレストランを探してトライして下さい。

この数年間にアメリカの食事が急変してきたように感じています。リーマンショック後、多くのレストランが消えていき、アメリカのレストランの食はどうになっていくのかと思つていましたが、立ち上がりついた単独店のオーナーシエフ達が今迄とは違った新しい食にチャレンジし始め、食の内容レベルが新しい境地に進化してきたと言つても過言ではありません。朝食を言つても過言ではありません。朝食を新しくしてみると、今はトースト、卵、ハムがそれに類するものが皿に出て来るのが定番で、それが何十年も続いてきました。私も同じような朝食を食べてきました。それがアメリカ流

フレンチトースト」。カリッと焼いたフレンチトーストに味を付け、その上にブルーベンチトーストが乗つて、とにかく美味い。もう一つは「ベネディクト」。マフィンの上にハム、ベーコン、ポテトが乗り、その上に卵という写真のような角切ポテトが一杯。私はクリスピーフレンチトーストが好きなので、店の人気ものです。この皿とコーヒーで約20ドルします。

「無限の空間」 加山 小学館
本棚から22年前に出版されたこの本を引っ張り出し、再読しています。アート、古いもの、モダンなものであれ、それを見てどう理解するか、感動できるか、私にとって難しい問題で、この年になつてもまだつかみ切れずにいます。加山氏は自分の絵を含め、主に古い日本画などについて語り、美とは何か？を問いかけています。アートを理解する上で参考になる非常に良い本です。アマゾンで見ますと中古本

あなたに感動の一冊
本便り



「サテイ/ピアノ作品集(1)」

サテイのピアノCDは数枚持っているのですが、この高橋悠治の弾くピアノの音色は全く違うのに驚きます。柔らかく、静かで淡々と流れていく美しさは日本の音なのかなあ！！いいですよ！それに値段も安いのです。

私は若い頃、音楽を殆ど聴くことなく過ごしました。お金もなかつたし：興味も持てませんでした。それを取り戻すために、六十後半から音楽を聞くよう努めてきましたので、その中で、自分が聴いていい想いを書いています。



